倉敷市教育委員会　様

倉市工高発第194号
令和　6年　3月12日

岡山県倉敷市立工業高等学校
校 長　　谷 口 和 士

令和5年度学校自己評価について、次のとおり報告します。

学 校 自 己 評 価 報 告 書

学校教育目標

1　生徒理解をすべての教育活動の根幹とする。
（1）生徒の未来シートや生徒連絡会の充実
（2）GSuiteクラスルーム等を活用した支援体制の充実
（3）ＳＣ・ＳＳＷと連携した多様な生徒への支援の充実

2　主体的に学ぶ喜びを体感させる（授業）
（1）市工版学習スタンダードの活用やものづくり教育の充実
（2）ＩＣＴを活用した授業実践の充実
（3）教科横断的な連携による基礎学力や実践力の充実、
全教員を対象とした公開授業の実施
（4）自己評価やルーブリックを活用したパフォーマンス評価研究の推進

3　自己肯定感を持たせる（自主）
（1）生徒会活動、クラス活動、部活動など自主的活動の推進
（2）地域連携、社会貢献活動の実践
（3）生徒の活躍を積極的に情報発信するなど広報活動の充実

4　将来の自分の姿を描かせる（進路）
（1）キャリアパスポートの有効活用と系統的なキャリア教育の実践
（2）就労支援による働きかつ学ぶという生活スタイル確立の実践
（3）各種検定の取得に向けた取組の実践
（4）地元企業見学や出前事業など体験的な学習をとおした
進路指導の充実

経営目標	現状分析	達成状況（評価基準）	最終評価	評価	次年度へ向けた課題
生徒理解	・身の回りの整理整頓が苦手な生徒もおり、落ち着いた学習環境作りに影響している。自らの健康・安全に興味関心が薄い生徒もいる。（庶務課） ・入学者には不登校経験者や特別な支援を必要とする生徒も多く、多様な生徒が在籍している。そのため各種調査やアンケート、情報共有等、生徒理解に向けた様々な取り組みをおこない、安心かつよりよい学校生活の実現、教員と生徒との良好な人間関係の構築に努めている。（人権相談課） ・礼儀やマナー不足の生徒や特別な支援が必要な生徒、不登校経験者など、多様な生徒が在籍している。その現状に合わせ、教員側の指導も幅を持たせる必要がある。（生徒課）・集団行動が苦手、授業を途中で退席するなど特別な支援が必要な生徒、指導が入りにくい生徒がいる。（機械科）・全学年にわたり特別な支援が必要な生徒が多数在籍している。（電気科） ・不登校経験者、特別な支援の必要な生徒、他校中退者、原級留置者など多様な 生徒が在籍している。（1年団）・各生徒の特性等を把握した上で指導・支援にあたっているが、時折、指導等が噛み合わないことがある。（2年団）・原級留置の生徒を含め、生徒の特性や人間関係などを年度当初の学年団会議で情報共有した。（3年団） ・生徒情報について年度当初の学年団会議で情報共有した。（4年団）	・健康診断の受診率が高まった。タイムリーな内容の保健だよりを毎月発行した。（庶務課） ・左記のことへの取り組み状況と、学校自己評価アンケート（生徒用）の「いじめのない民主的なクラスづくりがなされている」「学校は生徒の意見を 真剣に聞いてくれる」「先生は生徒の悩みや相談に親身になって応じてくれる」の各項目の評価結果で判断する。 A：左記のことに取り組み、併せて学校自己評価の結果がそれぞれ4以上である。 B：左記の事項に取り組んだ C：何も取り組んでおらず、学校自己評価の結果がそれぞれ2以下である。（人権相談課） ・迅速な生徒指導を行い、教員同士が情報共有を密にし、連携を取って指導にあたることができる。 A：すべて達成できたB：おおむね達成できたC：達成できなかった（生徒課） ・A：全て実施することができた。 B：二つの項目を実施することができた。 C：一つの項目のみ実施することができた。（機械科） ・個々の生徒の特性を理解し、個別に対応する。（電気科） ・遅刻をしないで教室に入ることができた。 ・授業に必要なものを準備することができた。以上をできた生徒がA：約75%以上B：約45～75%　C：約 0～45%（1年団） ・生徒の出席の状況、軽微な規則の違反や指導拒否（指導時の態度）、特別指導事案やいじめ事案の発生件数等を総合的に判断し評価する。（2年団） ・特別指導者が0であり、早期に生徒対応を行うことができている。（3年団） ・早期に生徒指導の対応を行い、説諭や特別指導者を出さない。長期欠席の生徒を出さない。（4年団）	・健康診断受診率は昨年の反省をふまえ、欠席の少ない月で設定し、心電図、胸部レントゲンなど100%を始め、昨年以上の高い受診率であったが、どうしても当日欠席者が出る。延べ数で11人、うち受診者2名 また歯科検診は同じ生徒が何年も受診していな傾向がある。ほけんだよりについてはスクールカウンセラーとのコラボ企画など新しい取組を実施した。環境美化については厚生委員会の協力もあり、毎月の点検などが行われ、美化意識が向上している。（庶務課） ・生徒連絡会は第3回まで予定通り開催し、各学年団討議とあわせて学年目標の決定・実施と生徒情報（状況・支援方法等）を確認し共有できた。（人権相談課） ・SC、SSWには授業参観や各種資料による学校・生徒の状況把握を通して、課題を持つ生徒に関して教員への助言や保護者対応への手助けをいただいた。相談室の生徒利用も数は少ないがみられた。なお、SSWには校内チーム制研修への参加を依頼している。（人権相談課） ・特別指導に対して課全体及び、担任・人権相談課・SCとも、連携を図り、対応することができた。尚、指導対象生徒については、継続的に観察と支援を行っていく。（生徒課） ・重大な指導案件が発生する前の未然防止として、下校時の学校周辺の見回りや、声掛けを行った。継続的指導が必要である。（生徒課） 交通事故については昨年に比べ軽数は減少したものの、日が短くなる11月から12月にかけて発生件数が増加した。（生徒課） ・各学年の生徒の情報共有を行い、これに基づいて実習の班編成を行った。実習の進行に問題は特に生じなかった。（機械科） ・非常勤の先生に対し、必要な情報の共有を行えた。（機械科） ・各学期末や、必要に応じて会議を開き、成績や欠課時数の情報共有を行った。（機械科） ・授業等で得られた情報がしっかりと共有できており、生徒の特性に応じて対応できている。（電気科） ・生徒情報の迅速な把握と対応を行うことができた。（1年団） ・生徒の出席状況として、欠席数が昨年度同時期と比較して81%増となった。アクセサリー や頭髪の乱れなどの軽微な規則違反はなく、特別指導の対象となる事案もなかった。いじめの発生に対して教員の意識を高め、問題に発展することはなかった。（いじめ件数0）（2年団） ・特別指導者が0であり、早期に生徒対応を行うことができた。（3年団） ・特別指導や長期欠席の生徒はでなかった（4年団）	A	・来受診の生徒に再度病院への受診を促していく。また治療の必要な生徒の治療率向上。（庶務課） ・生徒の未来シートの統一的な記入の仕方と生徒連絡会の運営手順等について見直すことを考えている。（人権相談課） ・学校生活アンケートは現在のところ紙媒体での実施を継続する予定である。（人権相談課） ・課題を持つ生徒への対応を考慮し、非常勤講師対象の生徒連絡会の確実な実施を図る。（人権相談課） ・校内での人権教育関連書籍・雑誌の活用を促す。（人権相談課） ・引き続き、生徒連絡会や日常の中で得た情報を課の中で共有し、生徒理解に努める。（生徒課） ・今年は特に2年生の人数が多く、配慮が必要な生徒もいたため心配されたが、問題なく進めることができた。来年もショップの精選や班編成の検討などを適切に行いたい。（機械科） ・欠課時数の内容を折々に共有できているが、随時、学年団・科長への報告、状況に応じて管理職の先生への報告など、徹底したい。（機械科） ・クラス担任、教科担任の連絡が密にできるように継続的におこなっていく。（電気科） ・生徒連絡会の情報が教科担任に伝わる流れの確認（1年団） ・出席率の改善。生徒の自己指導による、規範意識のさらなる向上。教員による、生徒理解の深化。（2年団） ・引き続き、未然防止・早期発見に努める。（3年団） ・必要に応じて学年団会議を実施し、適切に情報共有を行う（4年団）
授業	・各授業では積極的にICT機器を活用した授業展開がなされている。（教務課） ・授業規律の維持困難な傾向の生徒は減りつつある。一方、学力面での差違や支援・配慮を必要とする特性の有無により、多様な生徒が混在している状況がある。そのため、授業形態・指導方法・指導内容の改善や工夫が求められている。（人権相談課） ・授業規律を維持することが困難な生徒は減少傾向にあるが、支援や配慮等を必要とする生徒から、学力の高い生徒まで、多様な生徒が同クラスに在籍している。そのため習熟度を把握し、授業の進め方に工夫を必要とする。（生徒課） ・実習の最初の授業では、実習の取り組み方や実習中の安全作業についてガイダンスを行っている。PBLのような、生徒が主体的に取り組める授業が十分に実施できているとは言えない。・ルーブリックについては、工業技術基礎の評価のみ活用している。（機械科） ・整理整頓、清掃を苦手とする生徒もおり、落ち着いた授業に影響している。（電気科） ・決められた時間割の中で生活を続けた経験が少ない。（1年団） ・ICTを活用し、人前で話す、人に伝える資料作成などを学んでいる。欠課、遅刻の多い生徒がいる。（3年団） ・授業は真面目に受けることができる生徒が多い。欠課、遅刻の多い生徒がいる。（4年団）	・学校自己評価アンケート（生徒用）の、学習に関する質問項目（5・6・18）の三項目についての結果で評価する。 A：二つ以上の項目で評価が「◎」B：いずれか一つの項目で「◎」C：どの項目にも「◎」がない（教務課） ・左記のことへの取り組み状況と、学校自己評価アンケート（教員用）の「カウンセリング技術向上が生徒指導に活かされている」「教育相談 体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員とも相談することができる」の各項目の評価結果で判断する。 A：左記のことに取り組み、併せて学校自己評価の結果がそれぞれ4以上である。 B：左記の事項に取り組んだ。 C：何も取り組んでおらず、学校自己評価の結果がそれぞれ2以下である。（人権相談課） ・授業規律の徹底を図り、教科担当者のサポートしながら、学習や実習の充実感・達成感を生徒に抱かせることができる。 A：すべて達成できたB：おおむね達成できたC：達成できなかった（生徒課） ・A：全て実施することができた。 B：一つの項目を実施することができた。 C：何も実施することができなかった。（機械科） ・整理整頓、清掃ができ落ち着いた環境で授業に取組むことができる。・生徒が安全を意識した取組ができるようになる。（電気科） ・授業の始まりに全員揃っている。（1年団） ・必要な知識、技能を習得し、全員進級できている。遅刻早退が2年次と比較して減少している。皆勤者が3名以上いる。（3年団） ・昨年度と比較し、全体として欠席日数が減る。授業時の生徒指導案件が0。（4年団）	・学校自己評価アンケート（生徒用）の、学習に関する質問項目（5、6、8）の3項目全てが◎であった。（教務課） ・SC、SSWには授業参観により生徒の実態把握のうえ各クラス担任への助言等をいただいた。（人権相談課） ・期間を問わず、授業見学を行った。授業規律を維持することが困難な生徒や、支援・配慮を必要とする生徒が在籍していたため、ICTを有効活用した授業の充実が求められる。遅刻や欠課時数が増加傾向にある生徒に対して、入室届の様式変更に基づいて、注意を促している。（生徒課） ・安全に対する指導を適切に行った。（機械科） ・座学の中で探究活動を行う試みを実施した。（機械科） ・実習のレポート書式を統一し、ルーブリック評価を取り入れた。（機械科） ・安心・安全な授業の取組は行えており、清掃は実施できているものの、整理・整頓など細かい部分についても改善された。（電気科） ・1.2学期累計で始業時間などへの遅刻が10回以上の生徒が3名。遅刻回数が一桁の生徒が10名（76%）（1年団） ・授業に必要なものを準備することができた。（1年団） ・全員進級できなかった。遅刻早退の割合が2年次と比較して、2．5倍増加した。皆勤者が3名だった。（3年団） ・2学期までの学校行事への参加率は機械科、電気科ともに96%であった（4年団）	A	・chromebookの活用方法や、ルーブリック評価などについて、情報共有をし、全員が活用しやすい体制を整える。（教務課） ・生徒連絡会及びSC、SSWの授業参観により得られた生徒情報を授業で有効に生かすこと及びSC、SSWからの助言・提案等の担任へのフィードバックに努める。（人権相談課） ・校内の規律を維持することができない生徒に対してのアプローチを継続的に行い、ルールを守ることが何に繋がっていくのかを伝える必要性がある。担任と連携を図り、支援していく。（生徒課） ・安全については継続的な指導が必要である。複数の教員で生徒を指導する以上、教員の目が生徒から離れることのないように注意していきたい。（機械科） ・座学における探究活動は今後も必要である。今年の取組を反省材料にして、来年度も継続して研究したい。（機械科） ・ルーブリックは年々で更新していく必要がある。年度末にはレポートの書式も含めて、機械科の中で意見を集約したい。（機械科） ・生徒一人ひとりにあった整理整頓方法について指導をおこない、引き続き、学習環境を整え、安心安全な授業の取り組みを継続的におこなう。（電気科） ・SHRに間に合うように登校することを再度促す。（1年団） ・遅刻・欠席が減少するよう、日常の観察と声掛けを継続的に行い、基本的な学校生活のレベルアップを図る。（3年団）
自主	・自主的に資格・検定やものづくりに取り組む生徒が増えている。（教務課） ・「働きかつ学ぶ」生徒を支援する補助金が活用されている。芸術文化に触れる機会が必ずしも多くない。（庶務課） ・新型コロナウィルス感染予防対策の緩和を受け、生徒会行事をより充実したものになるよう検討し改善していく必要がある。（生徒課） ・昨年度は「高梁川流域未来人材育成事業」で地元企業と連携し、取組みを発表した。 生徒の活躍の広報については、学校ブログ、RSKラジオや学校説明会などで行っているが、今一つ中学生へのアピールが足りていない。（機械科） ・コンテストや競技会に出場するための取組を行う時間がない。資格取得のための学習を進める方法が分からない生徒が多数いる。（電気科） ・集団の中で決められた自分の仕事をこなした経験が少ない。（1年団） ・不登校経験や生徒のもつ特性、人間関係形成能力の不足等から、他者と協同的に取り組む活動に苦手意識がある生徒がいる。（2年団） ・部活動や資格取得に前向きな生徒が複数人いる。（3年団） ・委員会活動、部活動の中心として活動を開始した。（4年団）	・資格・検定試験の受験者数・合格者数取り組み状況によって評価する。 A:取り組みによって受験者数・合格者数が増加した。B:左記のことに取り組むことができた。C:左記のことに取り組むことができなかった。（教務課） ・ともしびへの生徒投稿率、映画鑑賞会の出席率が増加した。（庶務課） ・アンケートを集計し、検討し改善した行事・生徒の自主的な活動の状況を総合的に評価する。（生徒課） A：すべて達成できたB：おおむね達成できたC：達成できなかった（生徒課） ・A：全て実施することができた。 B：一つの項目を実施することができた。 C：何も実施することができなかった。（機械科） ・コンテストや競技会への出場したいという意欲のある生徒が現れる。・第二種電気工事士や各種資格・検定取得に向け、個別に対応し支援することができる。（電気科） ・黒板をきちんと消すことができた。・掃除を丁寧にすることができた。・号令をきちんとかけることができた。以上をできた生徒が A：約75%以上B：約45～75%　C：約 0～45%（1年団） ・事後のアンケート、キャリアパスポートへの生徒の記述内容、ならびに行事への参加状況等を総合的に判断し評価する。（2年団） ・部活動で全国大会出場者が1人以上いる。1つ以上の資格試験に合格した生徒が過半数いる。（3年団） ・学校行事への参加率90%以上（4年団）	・生徒への声掛けや情報発信に努めたが、昨年度に比べて資格・検定の受検者数、合格者数ともに大幅に減少した。（令和4年度：受検者数88名 合格者数52名、令和5年度：受検者数21名 合格者数12名）（教務課） ・生活体験発表会をきっかけに自己を見つめる作文をLHRを中心に作成し、校誌「ともしび」が無事完成の運びとなった。映画鑑賞会も予定どおり実施できた。（庶務課） ・入学式での特別支援教育コーディネーターとSSWの紹介・説明をおこない、保護者への周知を図った。（人権相談課） ・新入生オリエンテーションでSCによる教育相談・人権教育への説明と相談窓内をおこなった。（人権相談課） ・人権教育LHRでいじめ予防授業」では、法的視点から個人の尊重を考える新たな取り組みをおこなった。（人権相談課） ・生徒会主催の各行事については、生徒が主体的に活動し、概ね肯定的な反応であった。また、精思高校生徒会の生徒との交流会についても充実した内容であった。生徒会役員と係の中での情報交換も定期的に行った。今後も様々な行事に生徒の意見が反映された場面を多く作りたい。（生徒課） ・部活動については、大会に出場する生徒が減少傾向にある。単独チームで出場しているのは、バレーボール部のみとなった。（生徒課） ・課題研究の成果を広報する取り組みを1月に実施予定である。（機械科） ・溶接競技会やゼロハンカー大会の取組をブログで発信した。（機械科） ・教務課における学校訪問で、科のことも宣伝した。（機械科） ・初出場でJMCR2024中国地区大会ペマイコンカーカメラクラス一5台出場し、3台記録を残すことができた。（電気科） ・テクノフォーラム発表の一つとして、総合的な探究の時間を活用し、高梁川流域未来人育成事業に参加し、活動をおこなえた。（電気科） ・第二種電気工事士や各種資格・検定の案内を行い、授業に関連付けて指導ができている。第2種電気工事士に6名受験し、1名合格し、2名筆記試験に合格している。（電気科） ・黒板をきちんと消すことができた。・掃除を丁寧にすることができた。・号令をきちんとかけることができた。（1年団） ・球技大会、市工祭において参加状況は昨年度と比較して改善された。行事後のアンケート、キャリアパスポートへの記述内容に、交流できた経験について、達成感についてのものが複数確認できた。（2年団） ・部活動で全国大会出場者が2名出場した。電気科では、第2種電気工事士試験に前期で1名が合格し、後期でも2名が筆記試験に合格し実技試験の結果発表を控えている。機械科では、技能検定に1名が挑戦し結果発表を控えている。（3年団） ・2学期までの学校行事への参加率は機械科、電気科ともに96%であった（4年団）	A	・資格受検者が減少した原因を分析し、次年度の積極的な受検に繋げていく。また、保護者連絡システムを活用して、情報発信を積極的に行い資格受検を促進していく。（教務課） ・映画鑑賞会については設定時間から選ぶ作品に制限がかかる。時期を検討しても良いが、どのような映画が興行されるかは予測できない。（庶務課） ・入学式や新入生オリエンテーションでのSC、SSWの役割説明をおこない、周知を図る。（人権相談課） ・人権教育LHRでは対面式講演、体験型学習の取り入れを可能な範囲で検討する。（人権相談課） ・各行事のアンケートを参考に改善・見直しが必要な箇所については執行部の生徒を中心に、情報交換の場を定期的に設ける。（生徒課） ・課題研究の成果を広報する取り組みは今回が初めてである。これを来年以降も取り組めるよう、経験を積み重ねたい。（機械科） ・溶接競技会やゼロハンカー大会はそれぞれに一定の成果があった。こういった発信が今後もできるよう、機械科としての取り組みを組織として検討したい。（機械科） ・校外への学習活動を積極的におこない、生徒への自己肯定感の向上をはかっていく。（電気科） ・継続して指導する。（1年団） ・学校行事等の機会をとらえ、生徒の自主的・協同的な活動が一層推進されるよう、働きかけを継続する。（2年団） ・部活動や資格取得に積極的な生徒には日常の授業を怠らないよう併せて指導する。（3年団）
進路	・キャリア教育を充実させるため、外部講師による講演会や専門学校等の説明会を実施している。学校周辺に、勤労先が比較的多いこともあり、多くの生徒が就労している。近くに工業地帯があり、技能者の協力が得やすいという利点がある。・将来の進路については、就職希望の生徒が多い。求人票や職場体験等から得られる情報を生徒に情報提供し進路に役立てている。自分の進路については早期に考え、その目標達成に向けた取り組みを行うように指導しているが、自分自身で取り組めない生徒もいる。発達障害の診断を受けている生徒や特性のある生徒等は、就労や卒業後の進路選択に不安を抱えている割り合いが大きい。（進路課） ・生徒によっては、卒業までを見通した、計画的・順序的な進路設計を描くことが難しかったり、また自己の特性や能力の適切な把握ができなかったりす る、そのための進路について不安等を有する場合が多々あると思われる。（人権相談課） ・生徒の中には、規範意識が低い生徒も在籍している。そのような生徒に対して、教員側が一貫性のある粘り強い指導を心掛ける必要がある。（生徒課） ・昨年の卒業生について、全員が希望する方向への進路を決定できた。資格取得やものづくり競技会に向けて、授業の内外で積極的に取り組んでいる。機械科として、新たに資格取得ができる分野を模索している。（機械科） ・求人票や職場体験などから得られる情報をもとにした適切な進路選択ができていない。（電気科）・社会に出ていくことに消極的な生徒が多い。（1年団） ・不登校経験や学習へのつまずき等によって、自己肯定感が低かったり、将来の自分の姿を前向きにイメージできない生徒もいる。（2年団） ・定期的にキャリアパスポートを記入し、学校生活の振り返りができている。進路については はほとんどの生徒が未決定である。（3年団） ・卒業後の進路について、方向性が決まっている生徒、まだ決めかねている生徒がいる。（4年団）	・生徒自身が、卒業後の進路について考えることが出来ている。明確に自分の進路に希望を持てている。 キャリアパスポートを計画的に活用することができた、自己理解に役立てている。・就労率が75%以上である。 4年次での希望通りの進路決定、進路実現ができた。就職試験の合格率（一次）が80%を超えた。 学校自己評価アンケートの「就職・進学などに関する進路指導（キャリア教育）を行っている。」の項目結果で評価する。（7割以上）（進路課） ・左記のことへの取り組み状況と、学校自己評価アンケート（教員用）の「職員会議をはじめ各種会議が、情報交換と課題検討の場として有効に 機能している」の項目の評価結果で判断する。 A：左記のことに取り組み、併せて学校自己評価の結果が4以上である。 B：左記の事項に取り組んだ。 C：何も取り組んでおらず、学校自己評価の結果がそれぞれ2以下である。（人権相談課） ・頭髪指導ができた回数と指導後の生徒の改善状況により総合的に評価する。 A：すべて達成できたB：おおむね達成できたC：達成できなかった（生徒課） ・A：全て実施することができた。 B：二つの項目を実施することができた。 C：一つの項目のみ実施することができた。（機械科） ・生徒が進路を、将来像を描いて自分で決めることができる。（電気科） ・1年間を終えた段階での在籍生徒のうち就労継続（アルバイトを辞めたも含む）がある生徒が A：約75%以上B：約45～75%　C：約 0～45%（1年団） ・自己理解ならびにソーシャルスキルに関する学習等を行うLHRを2回以上、企画・実施する。また、それらの事後アンケート等の記述内容等を総合的に判断し評価する。（2年団） ・目標とする職種や進学先を決定できる。生徒と保護者で進路の情報共有が十分にされている。進路についての三者懇談を1人1回以上実施している。（3年団） ・生徒、保護者への情報提供を行い、連携をとり4年生が全員、自分が納得のいく進路決定ができるように支援する。（4年団）	・進路課内の役割分担を明確にし、効率的に業務が行えている。（進路課） ・キャリア教育として、「進路ガイダンス」「着こなし講座」を実施した。「進路ガイダンス」では専門学校・企業によるガイダンスと、講師による講話により進路意識の向上が図れ、生徒の進路選択に直接役立っている。「着こなし講座」では「ビジネスマナー」と「スーツの着こなし方・ネクタイの結び方」の講習により生徒の社会人への意識の向上につながった。（進路課） ・4年生の進路については、年度当初、個人面談を実施し、担任や専門科と連携を取りながら指導を行っている。また、応募前職場見学にも積極的に実施し、進路選択に役立てた。（進路課） ・発達障害の診断のある生徒や、社会に適応しにくいであろう生徒に対しての対応、支援については、他の課等と連携を取りながら学校全体で対応ができつつある。しかし、実際の進路選択においては、外部機関との連携などを視野に入れた指導も必要になってきている。（進路課） ・1、2年生を対象に工場見学を実施し、進路意識の向上や進路選択を含めたキャリア教育ができた。（進路課） ・キャリア・パスポートについては、キャリア教育の一つのツールとしての定期的な活用が出来ている。（進路課） ・生徒連絡会を通して生徒の現段階での進路志望の情報共有を図った。（人権相談課） ・卒業後を見据えた生徒支援についての課題を踏まえた教員研修を実施できた。（人権相談課） ・頭髪指導については、担任の協力も得ながら円滑に行えた。上級生については、それが進路を見据えた行動につながることを意識させ、進路指導にも繋がった。（生徒課） ・今年の4年生はそれぞれに本人・家庭の意向に沿った進路指導を行うことができ、希望通りの形で終えることができた。（機械科） ・溶接競技会やゼロハンカー大会など、生徒の活動を促すことができた。また、旋盤や機械検査などの資格指導も積極的に行えた。（機械科） ・マイスター制度を利用して金属熱処理の勉強会を実施した。（機械科） ・オープン講座では、進路課と連携し1年生を対象に工場見学を実施することができた。（電気科） ・2、3年生に対して興味・関心を深められるよう出前授業の計画ができている。（電気科） ・4年生は、進路課、電気科内で情報を共有し各自の進路に向け活動ができている。（電気科） ・1/9段階での在籍生徒のうち就労経験（アルバイトを辞めたも含む）がある生徒が14人中9人。（1年団） ・自己理解ならびにソーシャルスキルに関する学習を行うLHRを企画、2回実施した。事後アンケートによって、自己理解の必要性に対する意識づけ、加えて他者との関係づくりのポイントについての理解が深まったことが確認できた。（2年団） ・3学期に進路についての三者懇談を予定している。（3年団） ・保護者面談等を適宜行った。7名の就職と4名の進学が内定している。残る2名についても最後まで支援を続ける（4年団）	A	・進路ガイダンスについて、より多くの企業・学校のガイダンスが受けられるように内容を検討する。（進路課） ・高校卒業後の進路へ向けて、学校全体としての細やかな指導や、生徒個々への対応など検討する。（進路課） ・各課との連携を密に出来るような体制を整えていく。（進路課） ・生徒が自分自身のことを理解するために、LHRの時間やガイダンス、体験的な学習を有効的に活用できるよう工夫する。（進路課） ・工場見学に限らず、少人数での企業見学実施の体制づくりやインターンシップ・オープンキャンパスの参加を促し、進路選択に役立てるようにする。（進路課） ・発達障害の診断のある生徒や、社会に適応しにくいであろう生徒に対しての進路指導の体制づくりを見直す必要がある。（進路課） ・教員研修や校内チーム制研修等を通じ、他課、SC、SSW及び外部機関との連携を密にしながら進路保障とも関わる取り組みを考える。あわせて業務内容の見直しも検討する。（人権相談課） ・継続的に規範意識の向上を図ると同時に、欠課時数の増加や、時間を厳守することへの意識向上に努める。（生徒課） ・機械科の教員がそれぞれに積極的に資格指導や競技会などの指導を行った。一方で、教員への負担が集中してしまう場面もあったため、これを全体としてどうしていくのか検討の余地がある。（機械科） ・新たな資格取得の分野として金属熱処理2級を教員がまずは取得し、指導するための材料を集めることができた。今後はこれを生かして、実際に指導を行っていく。（機械科） ・授業が夜間にあり、見学、出前授業に来ていただける企業が限られる。日程の調整や企業開拓が必要である。（電気科） ・3学期から春休みに向けて、アルバイトを始めてみることを勧める。（1年団） ・これに類する学習を発展させ、生徒が実践的にソーシャルスキルを学ぶ機会を次年度以降に企画し、実践する。（2年団） ・卒業後の進路を見据え、学年団・保護者との情報共有を引き続き行う。（3年団） ・生徒、保護者への情報提供を積極的に行う（4年団）

4段階評定　（A：目標を十分に達成　B：ほぼ目標を達成　C：やや不十分　D：改善を要する）

来年度の重点取組（学校自己評価を踏まえた今後の方向性）

生徒理解　：　生徒の未来シートや生徒連絡会の充実を図る。Gsuiteクラスルームの活用やSSW・SCとの連携を図り、きめ細かな生徒支援を行う。
授　　業　：　Chromebookを活用した授業改善を行う。ゼロハンカーやロボット製作など、ものづくりや体験的な学習の充実を図る。
自　　主　：　生徒会活動や部活動に積極的・意欲的に参加できるように指導する。ボランティア活動や環境教育を積極的に参加するよう計画する。
進　　路　：　希望重視の進路指導に向けて、計画に基づいたキャリア教育を推進する。資格取得の取組みや在学中の就労指導が、進路選択に繋がるように指導を継続していく。